

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	桶狭間古戦場まつり開催事業（主要事業）									
1 - 2 担当	部	経済建設部	課又は施設	産業振興課	係	商工振興係	評価票作成者	観光・消費生活担当係長 兼 子公司		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」				基本施策	観光		コード	3—3—4
	項	産業振興				単位施策(中)	イベントの推進		コード	3—3—4—2
						単位施策(小)	まつりの充実		コード	3—3—4—2—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	県内外の人			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		「桶狭間古戦場まつり」が、豊明市の代名詞となっており大勢の観光客で賑わっている。			
1 - 5 事務事業の内容	三大古戦場のひとつである史跡「桶狭間古戦場」を観光資源として県内外に P R していくため、桶狭間古戦場まつりを盛大に毎年実施していく。また、愛知県も武将観光に力を入れているので、愛知県とも連携して P R していきたい。									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	桶狭間古戦場まつり実行委員会の各部会との事業内容の調整に取組んだ。			各部会の役員が高齢化しており、若年層の参加があまりみられないが現状は難しい。			各部会参加者、地元住民等に対するアンケート調査を実施していない。今後は、できる範囲内で実施して市民ニーズを認識していきたい。			
	平成19年度	〃			〃			〃			
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	桶狭間古戦場まつりの観客数（人）				30,000（人）	30,000（人）	6月の第1土曜日・日曜日に開催される桶狭間古戦場まつり来場者数				
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a（人）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b（千円）	28,000	28,000								
	人件費 c（千円）	4,976	5,223								
	合計コスト d（b + c）（千円）	1,843	1,843								
	単位コスト d / a（千円）	6,819	7,066								
		1人当たり 0.2	1人当たり 0.3	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明

→ 直接事業費 市補助金のうち桶狭間古戦場まつりに支出した額
人件費 3月 1人×5日×8h×3,200円=128,000円 4月 1人×12日×8h×3,200円=307,200円 1人×10日×8h×3,200円=256,000円 1人×5日×8h×3,200円=128,000円
5月 2人×10日×8h×3,200円=512,000円 1人×5日×8h×3,200円=128,000円 6月 4人×2日×8h×3,200円=204,800円 4人×1日×8h×3,200円=102,400円
2人×3日×4h×3,200円=76,800円

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（単位）	28,000（人）	28,000（人）								
	後期目標値に対する達成度（％）	93.3（％）	93.3（％）								

3 ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 （アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- ４段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２ 評価の内容	平成18年度	地元住民の協力、応援体制が必要となる。	イベントがマンネリ化しないように各部会と事業内容を検討する。	地元住民、各団体と協議をしながら取り組んできたが、事業内容等の検討が十分できなかった。
	平成19年度	〃	武者行列の隊列におんな神輿を加える等マンネリ化にならないよう改めた。	部会と打合せを行い、警備体制の見直しに取り組んだ。
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１ 総合評価の結果	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		